

図3-9により、まず男性のデータをみていこう。日本男性の場合、「配偶者あるいはパートナー」を挙げる人が多いという傾向は、ほぼすべての年齢階層に共通してみられる。とはいえ、60歳から79歳までは7割台を占める「配偶者あるいはパートナー」の比率は、80歳以上で61.7%へと大きく低下する。この変化は、配偶者の死亡によるところが大きいものと推測される。これに代わって比率を伸ばすのは、「同居している子供や他の家族・親族」である。70歳代までは一桁であった比率は、80歳以上で16.7%となる。また「自分」という回答は総数レベルで第6回調査より上がり（11.4%→16.4%）、全年齢層において10%以上の値を示すとはいえ、80歳以上全体で18.3%、とくに85歳以上を別集計（図3-9には掲示せず）すると26.7%と目立って高くなる。前回調査に比べて、85歳以上の高齢になって以降、同居の子どもなどに頼る人は減り、「自分」がやるという人が増えている点には注目したい。

韓国男性についても、おおまかな傾向性は日本男性と類似しており、「配偶者あるいはパートナー」を中心としつつも、75歳以上になると明らかにその比率が低下して、これに代わって「同居している子供や他の家族・親族」や「自分」を挙げる人の比率が増していく。年齢階層別にみた現状も、また前回調査からの変化も、韓国男性は日本男性の傾向ときわめて類似しており、高齢になるほど配偶者をあてにできなくなる状況を同居する子どもなどの援助により埋め合わせる傾向が確認できる。

欧米3カ国の内、ドイツとスウェーデンの男性は、日本や韓国に比べると「自分」を挙げる人の比率がどの年齢層でも高いとはいえ、「配偶者あるいはパートナー」を挙げる人が高い比率を占めること、しかしその比率は70歳代半ばあたりを境として大きく低下するなどの点では、日本や韓国とおおむね共通する傾向性を示す。ただし、「配偶者あるいはパートナー」に頼りがたくなる超高齢期において、日本や韓国のように同居の子どもなどの手助けを受ける人は少なく、「自分」でやるという割合が大きく上昇する。80歳以上についてみると、ドイツ男性の25.0%、スウェーデン男性の42.0%が、主な家事の担い手を「自分」としていた。したがって、「自分」もしくは「配偶者あるいはパートナー」が主として家事をするという合計比率は、80歳以上においても8割から9割以上を占めていた。

アメリカ男性は、先述の通り、総数レベルでも「自分」「配偶者あるいはパートナー」が主に家事を行うという回答は各41.5%で、均衡していた。年齢階層別にみても、60—79歳においては、「自分」と「配偶者あるいはパートナー」の比率は均衡しつつ高比率を示すが、80歳以上になるとこの両カテゴリーの合計値が60%程度に低下し、その他のカテゴ

リーの比率が急増する。80歳以上のカテゴリーについてみると、「家事援助を職業とする人」21.4%、「同居している子供や他の家族・親族」13.1%、「非同居の子供・家族・親族」3.6%などである。80歳以上の高齢男性における家事ニーズの充足方法は、きわめて多様であることが読み取れる。

では、女性の場合はどうか。日本女性の場合は基本的には「自分」だが、加齢とともにその比率が低下し、その不足を「同居している子供や他の家族・親族」が補うという傾向が顕著にみられる。具体的には、60歳代前半から80歳以上にかけて、「自分」とする人の比率は94.0%から61.1%へ、これに対応して「同居している子供や他の家族・親族」の比率は3.6%から33.6%へと変化していた。韓国女性も基本的には同パターンの変化を示すものの、その傾向性はより顕著であり、80歳以上では、「自分」46.7%、「同居している子供や他の家族・親族」44.0%とほぼ均衡する値を示していた。日本と韓国の女性は、日常の家事ニーズの充足を、自分自身も含め基本的には家族・親族の範囲内で対処しようとしている様子が見えらる。

では、欧米3カ国の女性はどのように対処しているのか。まず3カ国ともに、高齢期に至っても「自分」で対応する人が多いが、いずれの国でも80歳を超えるとその比率の低下が目立つようになる。「配偶者あるいはパートナー」が担当するという比率はこれらの国でも低いため、「自分」ができない部分を支えるのは、同居・別居にかかわらず、子どもや親族、あるいは「家事援助を職業とする人」である。「家事援助を職業とする人」を挙げる人の比率を80歳以上のカテゴリーでみると、アメリカ21.2%、ドイツ10.6%、スウェーデン8.5%という状況であり、他の年齢層に比べて格段に高くなる。また同居・別居にかかわらず「子供・家族・親族」を挙げる人の比率は、日本や韓国に比べて低いものの、80歳以上においては、アメリカ女性の場合、同居者12.4%、別居者5.3%が挙げられた。ドイツも同様に、同居者6.1%、別居者4.5%が挙げられたが、スウェーデンでは同居者を挙げる者が1.2%みられたのみであった。

図3-9 男女別年齢階層別・主に家事をする人



